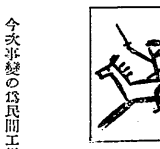


# 産業と戰傷者問題

全國産業團體聯合會　森田良雄

今次事變の爲民間工場鎮山等から應召した從業員で護國の鬼と化したる從業員の赤誠の總和を以て當ること

以上の三點を戰傷者取扱上の指導方針として、以下差當り問題となるべく豫想される戰死傷者に對する弔慰金及援産問題につき具體的私案を掲げることにする。（戰傷者を原則として工場に引取り、從前の若くは類似の作業に就かしめること――所謂再雇傭の問題に付ては原則として勿論議論のない所と思ふが、此の點は勞務管理の實際問題として多分に專門的且技術的事項であるから、玆に簡單に私見を申述べることは差控へることにする）

## 一、戰死傷者に對する弔慰方法

應召從業員が戰死又は戰病に因つて退職する場合、會社から弔慰金又は見舞金等を支給することは、事業主の道義的精神の發露として洵に推稱すべき美風であることは勿論である。然し玆に考へなければならぬことは、斯うした金錢的給與は事業の負擔力に依て自ら厚薄を生ずることが當然であり、大會社と中小工場と、その間に雲泥の差を生ずるばかりでなく、一方獨立營業者や農村からの應召者の場合を考へるならば、社會的衡平といふ上から問題が生ずることは、義に應召從業員に對する應召期間中の給與問題に關して兎角の議論が行つたことに見ても明らかである。凡そ斯うした銃後施設は事柄の性質上會社工場獨自の所謂勞務管理の觀點から規制さるべきものではなく、寧ろ社會的均衡と公正といふ觀點から施設計畫せらるべきものであらうと思ふ。

戰死者及傷痍軍人に對しては國に於ても年金、扶助料その他の支給に就て遺憾なきを期する譯であるから、民間事業主としては是等の給與額を考慮に入れ、餘力ある場合は國の給與の及ばない方面に幾分でも援護の實を擧げ得るやうな別途の給與を爲すことが至極有意義のことゝ思はれる。それにしても唯一時的、廣告的に流れず、永く銃後の涙誠を寵し得る合理的な給與であつて欲しい。私はそれに就て各事業主相互に十分聯絡協調して、給與額に付き或程度の標準を定め、可成各社共その標準に據られることが望ましいと思ふ。

いまその一例として私案を申せば

イ、應召從業員戰死の場合賜與

する金額は勞働法規による遺族扶助料の一定割合（例へば標準賃金四百日分の六割乃至四割）とすること

ロ、應召從業員戰傷病に因り退職し又は復職するに至らない場合、賜與する見舞金の額は勞働法規による「身體障害等級及障害扶助料表」に基く各等級扶助料の一定割合（例へば半額）とすること

而して右により支給する金額は一時金として支出するもよいが、場合によつては將來業務の給與、再教育その他職業轉換に要する生業資金の一部に充當するのも妙であらう。

## 二、物的給與以外に爲すべき事ども

惟ふに戰死傷者に對する取扱の根幹は單なる金錢的給與のみに止まるものではない。寧ろ進んで永く彼等に對し精神的援護の誠を盡し、傷兵、遺族の人々をして各々その能力に應じて適當な生業に就き得るやう、高級の努力を致すことが要諦でなければならない。永久に渝らない赤誠こそ百萬金にも勝る給與であらう。さうした氣持で當面事業主に要望したい思ひ付の點を左に列記して見よう。

イ、傷病者の退院は各樂の凱旋に比すべきであるから、是非共事業主は勿論從業員諸君は病院に之を迎へ、感謝と慰藉の赤誠を示され度い

ロ、事業地附近に於て主として從業員を顧客とし得る獨立の生業に就くやう極力斡旋の勞を執られ度い（例へば煙草、切手、書籍雜誌等の小賣店、下宿屋、飲食店、仕立屋、理髮店等の開業）

ハ、假令會社との雇傭關係はなくなつても「社友」といふやうな名稱を與へ、會社の記念日、運動會、慰安會等には正式として招待し、共濟會、勝買會等には特待し、共濟會の特典を認め以て永く功勞に酬ゆることにし度い

ニ、子弟の教育、就職等に付ては出來る限り面倒を見られ度い。

## 戰爭の實感

大阪朝日新聞社
北支戰線特派員
田中利一

本文は一月二十一日の東朝に『父を殺つて』と題して掲載されたものがあるが、特に胸に迫るものあるため、許しを得て轉載することとした。

北支戰線殺北端の湯境――炭礦稍、山西北部、綏遠、張吉の奥地に過した四ケ月の從軍から、內地に向つて包頭を引揚げる頃は黃河北端の流れも凍り陰山山脈には初雪が白く敲つてゐた。

湯境では朔風に吹かれつゝ故國を想つた。假刻に支那の前途を考へながら銃火の中を走り廻つた。戰場では野犬に肉を食ひさかれてゐる支那兵の無殘な屍も見た。鬼神を失つた殘兵のあはれな姿も見た。彈丸、砲丸がビュービュー飛んで來る中を第一線に出て行くスリルも體驗した。更に我が皇軍兵士が大和魂の權化となつて悲壯な挺身のありさまもこの目で見て來た。

民族と民族が、一つの思想とこれに反する思想が、止むに止まぬ經濟的發展力とこれを防ぐ一つの勞力が、互に死を賭して闘つてゐる。その嚴粛な事實に對面してゐる――は一つの銃聲に、一發の隅の際に世界と人類と歴史を感じてゐたはずだ。しかもこれを從軍記者としてどこまで表現し得たであらうか、戰線から離つて來てつくづく自分の力が足らず、仕事の小さかつたことを恥かしく思ふばかりである。

――――――――

南口攻撃に從軍したころはまだ戰爭そのものに夢中だつた。生れて初めて實彈の洗禮を受けた興奮と衝動に胸をどかんとどやされたまゝであつた。居庸關、八達嶺の山岳戰もたゞひたむきな戰道の快味に醉ひしれたまゝがむしやらに働いてゐたのだつた。しかし察哈爾に入り皇軍について山西省北端に出て、大同から綏遠攻略と太原攻撃に入るころからだん〳〵私は落ちついて來た。戰爭そのものに慣れて來たといふよりもこの戰爭といふ嚴粛な大事實の前にいろ〳〵のことを考へさせられるやうになつて來たのだ。

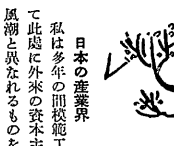
地圖を開けば山西省の山岳地と綏遠からはるか北に西へと伸びる廣漠たる沙漠の海だ、四方遮ふ兵士たちはすでに久しい間遠く故國を離れて、或はます〳〵强り切り、あるひは感傷的になり、すべてはそれ〳〵の兵の中にあるものの全部をさらけ出し、人間味そのものになり切つてゐた。支那の民は破力の前にただ生命大事といらだしく動いてゐる。

鐵管のない世界だ、國家と人類と世界のことばかり考へる世界だ。私は今までの生涯を通じてこれほど强力な魂で物を考へたことはなかつた。

――――――――

私は從軍記者として戰況や武勇傳のみを報道してゐることよりもつと大きな仕事があるのを氣付いたのであつた。自分が狹い島國根性の宿命的な殻を破る時が來たのだ、たゞ古い殻を





# 日本の産業道

厚生省事務官　鈴木宗正

## 日本の産業界

私は多年の間模範工場を視察して此處に外來の資本主義の一般の風潮と異なれるものを諸處に發見し、大いに教を享け深く考へさせられたのである。日本人の氣風に合つた又日本に於て始めて發生し得る醇風美俗とも云ふべきものを各般の施設に見たので此處に日本の産業道が確立せらるべきものであると信じて居る。昭和の日本は戰時は別として平時に於ては社會の最も大なる支配者たる産業界に日本の産業道が確立されてこそ封建時代の支配階級の道德であつた武士道が此の時代を支配して道立ち德明かに社會秩序が維持されたと同じに今日の世間が明朗なるものになり得ると考へて居るから、この道を樹つる爲に梅花を求め歩いてゐる。

## 歡喜の工場

産業界の基礎を爲して居る株式會社は株主が利益を取る爲め集り權利を主張し義務を額面の範圍に於て負つて居り少しも奉仕の精神がない。ところが模範工場に行つて見ると、その工場の第一の目的は營利の追求ではない。働いて居る從業員と共にその事業を營み、毎日働いて社會に爲して居ることを勞資共に心から感謝して居る。儲かるからとてただ事業を擴張して行くことはしない。工場全體が溫かい空氣に包まれて此處の製品は益〻優良なるものと改良されて行き、事業が徐々に繁榮して行くを勞資共に樂しみつゝ月々の業務を元氣に背の面上に歡喜が現はれて働いて居る。それは工場に於てのみではない家庭生活に於ても暗い陰の無いものになつて居る。

## 勞資奉仕の社會

又勞資の間が權利義務で結ばれて居るのでは無くお互に捧げ合ひつゝ働いて居る。工場主は自分の處に働いてくれる者は一生を捧げてくれるのであるから出來る丈け酬ひることを考へ此の人の人生を幸福なるものにすることを念じて居る。そして貯金をすることを援助したり、利益配當は株主に次げするのでは無く純益の半分を從業員に强いたり株式を分譲することを心配してやつたり其他種〻の經濟的援助をしてやつてゐる。

從業員はその工場に働かしてもらうことが自分の一生の幸福であると信じ工場から出されない樣に又工場がよくなつて行く樣にと考へて働いて居るし、働くことに不平なく健康に愉快に働いて居り全心全靈を工場に捧げて居る境地である。その工場は勞資の奉仕の社會である。

## 營利本位の株式會社

これ等の工場が株式會社の形態をとつて居るが一般の個人主義的なる、利益本位の、權利義務關係の株式會社は日本に於ては根本的に是正されなければならないものではないかと考へる。

從業員はその仕事が國家社會へ貢獻するものであるとの信念を持し得てこそ働き效ひのあるものとなる。株式會社の株主の私腹を肥やす色彩の强いものであると思へるのでは自分も私腹を肥やすことを考へ、働いても不平が多く出るのは止むを得ない。工場の經營方針を國家社會への奉仕に置かなければ社會に及ぼす惡影響は決して少なくないし、又從業員に對しても誤聞化しが多い。此處に株式會社の社會への寄與がある。株式會社の目的は（個人會社も同じであるが）利益本位であつたり個人本位である可きではなく、國家社會への貢獻であり、全體本位である。かくてこそ從業員も愉快に働けるのである。

株式が値が上れば賣つて逃げてしまふ株主や、遺産相續したりしてあまり勞せずしてなつた株主が會社の經營方針を定める株主總會に於て利益配當の少しでも多からんことの公然主張し、毎日汗水流して働いて居る從業員が會社に積極的に貢獻しても貸銀手當の增額以外に利益配當に預ら無いことを鐵則とされて居る今日の制度に疑問を持つことは許さるべきである。これは從業員側にも誠意の足らざる缺點は存するが、勞資が誠意を披歴して業務改善を研鑽し合ふ勞資の意思疎通機關を設けることは是非必要である。たゞそれは勞資の權利を主張撫護し合ふ如き外國式のものであるなら紛爭の種となることは明かである。模範工場は勞資の眞心を以て經營されて居る。

## 人生の修養道場

模範工場は人生の修養道場である。此處に働いて居る者は工場主を始め皆な善人である皆な善人になつて働いて居る。かけがへの無い一日一日の人生をどうか眞善美の世界に送らせ度い。或る工場主が育つて居た。昔はお寺に行つて善男善女が說教を聞いて生活の安定を得たり、人生の引導を渡されて居た。今日では多くの人々は工場で生活の安定を得たり首を切られたりして居る。その工場が從業員の教育をする處にならなければ世の中で教育してゐる處はない。工場は人生の修養道場であるべきだと。そしてその工場では毎日十時より全員、社長も一所に屋上に上り國旗を君が代吹奏裡に揚揚してから宮城遙拜を行ひ終つて時々社長の短かい訓話があり、工場體操をして居る。全員が一日少なくも一度眞心に立ちかへる行は信仰への道であり最も良い教育法である。

## 第二の産業革命

陽の如きあかき眞心を各人に持たせ物心一如の境地を醸し國體明徵への道に進めることこそ日本の産業道である。それは日本の第二の産業革命である。